

資料

2019年3・1百字宣言の呼びかけ

—100年前を思い、これからの100年を考えるために—

3・1 朝鮮独立運動 100周年キャンペーン

1919年3月1日、朝鮮ソウルで一つの宣言書が発表され、この日以降、植民地支配を続けようとする日本の警察と軍隊によって押さえつけられるまで、朝鮮独立を求める人びとは示威行動を繰り広げました。この3・1運動は、朝鮮・韓国の人びとにとって、自分たちの国を取り戻すために行われた歴史として語り継がれ、記念されています。またそれは、韓国・朝鮮の人びとのみならず、世界のすべての人にとっても、記憶し、記念されるべき出来事と言えるでしょう。なぜならば、誰かを劣った存在として、差別し、自己決定権を奪い取る植民地主義によって傷ついている人が存在し、それゆえに、その根絶をめざすたたかいが続けられているからです。

しかも、1919年からちょうど100年を迎えようとしている今日の世界では、残念ながら、様々な大切な歴史的事実がしばしばかえりみられないままになっています。それどころか、あったことをなかったことにしたり、力を持っている者によって勝手な解釈が宣伝されたりしてもいます。そんな今こそ、私たちは3・1運動を記念し、その世界史的意義を広くアピールしていかなければなりません。その際には、その史実を無味乾燥な年表の1行として覚えるだけでは意味がないでしょう。私たちは、その時に何が起こったのか、行動に立ち上がった人びとがどんな思いでいたのか、さらには支配をうける人びとがどんな暮らしをしていたのかについて思いを寄せ、そのことを学び、記憶し、伝えなければなりません。

それとともに、私たちは、1919年3月1日に宣布された「宣言書」を、100年後の今日にこそ読んでみるべきであると考えます。そこには、100年後のいまを生きる私たちに示唆を与え、勇気を奮い立たせる言葉があり、まだ解決されず追いつめなければならない課題が語られているからです。そして、とりわけ、日本に住み、日本の政治に責任を持つ者にとっては3・1運動の「宣言書」を読むべき責務があるでしょう。

100年前に、日本の植民地支配に対し何が問題であり、なぜそれに抗うのかについて書かれた言葉に対して、日本の人びとはどのように対応したのでしょうか。100年前の時点のみならず、その後の100年ずっと今日まで、この「宣言書」に何が書かれているかを知ろうとし、それを通じて何を訴えかけようとしたのかを考える人は、ほとんどいなかったのではないのでしょうか。しかも、現在の日本では、3・1運動を、偏狭なナショナリズムに基づく「反日運動」であるかのように捉える人びともいます。さらに言えば、現在の韓国・朝鮮において発せられる様々な主張を、聞こうとも確認しようともせず、「あの人たちはわけのわからない、おかしなことをいっている」として片づけようとする風潮すらあります。そうした状況を目の当たりにする時、100年の間、日本社会は根本的には変わっていなかったのではなかったのではないかと思わざるを得ません。

もちろん、この100年間には、日本が朝鮮を植民地支配していた時期も含めて、社会全体のなかの支配・被支配の関係とは別に、個々人が心を通い合わせ、文化や学術、スポーツなどの交流も積み重ねてきた事実もちろんありましょう。しかし、やはり問題の根本を100年間放置していたゆえに生じている、民族間の葛藤や対立は厳然として存在しています。そして、南北に分かれて軍事的緊張とそれがもたらす社会構造のひずみを強いられてきた朝鮮／韓国の人びとがそれを是正し、東アジアに平和を実現しようとしている時に、日本人は、過去の歴史も現在の自国の態度のあり方を省みることなく、極めて冷ややかな態度を示しています。

そうした現実を前にして、わたしたちはそれぞれがそれぞれの場でなすべきことは多くあります。そのことを念頭に置きながら、わたしたちは、遅ればせながら、100年前の3・1運動とそれを受け継ぐ闘いに応答することを提起します。そして、その応答の一つの方法として、これからの100年を構想し、それぞれの新たな3・1宣言を100字にまとめて発表することを私たちは呼びかけます。

内容は3・1運動の「宣言書」を読んで考えたことや発見、この100年間に起こったことで語り継ぎたいことや歴史の反省、韓国・朝鮮の人びとや、日本人、あるいは世界に訴えたいこと、自分が生きてきたことを省みて考えること、国の政策に望むことや自分自身の決意、あるいは、望ましい人びとの関係や社会のあり方、少しでも変えていきたいことなどが考えられます。それぞれが宣言を発表し、それを互いに読み、語り合うことは、これまでの100年の問題を明らかにし、今後の望ましい社会を構想することにつながるはずです。東アジアの平和、民主主義と人権をめざして力を合わせていきましょう。

呼びかけの趣旨に賛同し、私たちの3・1百字宣言を連ねます。(到着順)

宣言書の「武力をもって人びとを押さえつける時代はもう終わりである。(中略)人間を大切にする精神は、まさに新しい文明の希望の光として、人類の歴史を照らすことになる。」こそ、永遠不変の宣言だ。

城山大賢

日本政府は未だに戦争責任を取っていません。徴用工問題は賃金不払いの正当な賠償請求にもかかわらず、日本の総理・安倍は屁理屈でクレームをつけています。平和構築を阻害する安倍内閣の解体を目指して活動します。

野村修身

私の両親・祖父母を含む日本人が、長きに渡り差別と不正義で敬愛する朝鮮半島の人々を苦しめ、数々の蛮行、残虐行為で多くの命を奪い、貴重な文化財産を強奪、破壊した事を深く反省し心よりお詫び申し上げます。

長坂りえ

戦後、植民地主義を払拭しないままにきて、旧日本軍性奴隷、徴用工の問題を引きずっています。昨今の日韓の不和の責任は日本が負わなくてはなりません。「3・1」を私たちの「戦後」を問う日として、行動しつづけます。

磯貝治良（「韓国併合100年」東海行動）

ソウルで乗ったタクシー運転手の父上が強制連行された人と知りタクシーを降りようとしたら過去は気にしないで韓国を楽しんで、と慰められ隣にいる慰安婦にされた方の手を握り涙するしかなかった事、忘れません。

安西玲子（岐阜県地下壕研究会）

5歳のころ、近くの貯水池の縁で粘土遊びしていて、水中に落ちた。異変に気付いた朝鮮人婦人の叫びがなかったら、僕は溺死していたかも。日韓条約以降に日朝関係の絆を学び、3・1独立運動の歴史と理念に連帯深める。

須田 稔

明治150年間、朝鮮侵略と民族分断に明け暮れた日本。今後は真の反省と謝罪と和解の150年に。そのターニングポイントが2019年31百周年。この31は中国・朝鮮・韓国・日本が真の平和な東アジアを構築する出発点だ。

塚本清一

日本が過去の侵略戦争の歴史を認めて謝罪し、保障すること。次代にこの事実を引き続いて伝えていくこと。それが無い限りアジアの民衆との信頼と連帯は生まれない。3・1独立運動の歴史、精神にまなび共に闘っていこう。

望月陽子

日鉄徴用工への補償・支払いは日本側の義務。支払拒否なら、1965年経済協力金も「非協力」金だったのか？ 侵略・併合した日本、韓国には無謝罪・無賠償だ。土足で踏み込んでおいて「知らん顔」は、人類への敵対・罪。

吉田 正司（沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック）

日本人旅行者が朝鮮半島を南北自由に往来できる日には、釜山～ソウル～開城～平壤～白頭山～延吉～北京の旅を企画しよう。核兵器のない、非同盟の、平和と友好の東アジア共同体への道を歩んで行こう。

今野耕太

3・1宣言文を発表したインテリ達は、集まった民衆が急進化するやいなや逃げ出してしまった。朝鮮解放革命は、生存権も人間としての尊厳も奪われてきた民衆によってしか実現できないのだということが明らかになった。

吉鶴憲二（日韓ネット会員）

朝鮮半島の人々に酷いことをしてきた事実をきちんと認めようとせず、また、今も差別し続ける日本政府に対して、日本人として恥ずかしい思い出いっぱいです。朝鮮半島の統一が実現することを祈っています。

古賀 政敏

「お前らは日本人か？」と詰め寄ってきた朝鮮人達。30 年前のパゴダ公園での出来事を忘れない。彼らは忘れない。われらも忘れてならぬ。忘れぬようにさせねばならぬ。その上に全ての問題がある。

菊地大

譬え闇の中であろうとも「あなたの光に、わたしたちは光を見(詩編)」るように、3.1 独立宣言が日韓市民連帯の懸け橋となり、「光明に向って邁進(3.1 独立宣言)」できるように…

辻子実

朝鮮半島・北東アジアの新秩序が南北の主導で形を成す程に、米軍と自衛隊は日本からの半島出撃態勢を強化しています。3・1 独立運動に対する血塗られた弾圧の再現を許さず、新時代の幕開けに貢献したいと思います。

松平直彦

人の苦しみや悲しみに共感できる能力を育てよう。そうでなければ世界で共通する文化は育たない。孤立の衰退する将来しか望めない。今こそ人を愛し共に生きる幸いを求めよう。全ての人々を家族として受け入れよう。

上西創造

「3・1 宣言は、日本を非難断罪するためでなく「恨」を解き超えた、より高い人類普遍の理想実現への呼びかけ・招きである。国家よりも人類として、互いの尊厳をリスペクトし合っていく人間の歩み、この道を共に進もう！」

平和といのち・イグナチオ9 条の会(世話人代表：光延一郎)

日本人は、先の大戦を考える時、無意識に1931 年「満州事変」からと見え、1910 年「韓国併合」や1919 年「3.1独立運動」を忘れていないのではないか？ 韓国の人々の声に耳を傾け、記念館訪問や、市民との交流を。

渡辺真哉

今も、朝鮮侵略の元祖とも言える福沢諭吉や、伊藤博文を偉人と捉える日本の歴史は、これまでの150 年の明治以降の歴史を総括していない。歴史教育は近代史こそ重要で、今からでも、遅くない。明治以降の「アジアへの侵略の歴史」を学びなおそう。アジア諸民衆と連帯するために。

原田章弘

被抑圧民族の説得的な宣言を記念します。中国はもちろん韓国や朝鮮も独立するが、対米従属の日本のみ差別主義(植民地主義)を温存しています。私は、無政府自由(共産主義)を理想として生きたいと思います。

斎藤洋太郎

3・1 独立運動から100 年の今、日本では植民地主義を清算せず居直り、改憲・軍事大国化に向けた暴走を続ける安倍政治がまかり通っている。これを一刻も早く終わらせ、朝鮮半島の米びととの平和・友好・連帯を築こう。

日韓民衆連帯全国ネットワーク(日韓ネット)

分断され休戦状態の朝鮮半島のふたつの国が、対話によって平和を取り戻そうとしている時、日本は対立をあおり軍備を増強している。私たちは植民地時代と変わらない差別・蔑視をなくし、共にアジアの平和をつくろう！

尾澤邦子

海外からの旅行客を増やし、更に好感を持ってもらえる様、1万円札の肖像画を征韓論の「福沢諭吉」から、反対した「勝海舟」等、別の人物に替えよう！ 歴史認識として恥ずかしい。

渡辺真哉

1910 年の日韓併合は合法だ、むしろ韓国が望んだという保守反動の理解が日本を覆っています。この間違った歴史理解を糾すのは日本の市民の責任です。

柴田武男

日韓民衆連帯前進万歳！！

大口昭彦

古来、「三国時代」(新羅・百済・高句麗)を経て、高麗王朝から朝鮮王朝の時代、朝鮮半島は一つであり、朝鮮民族は一つであった。日本は今日の分断状態に大きな責務がある。この歴史的事実をふまえ、日本は朝鮮半島での民族統一と平和構築にむけ責任を果たさなければならない。

竹内 宏一 (日朝教育・文化交流をすすめる愛知の会)

日本敗戦で侵略戦争と朝鮮半島・台湾の植民地支配は終わった。その間に朝鮮人、中国人、アジアの人々、そして捕虜を牛馬以下に扱い労働させてきた。現在の低賃金・長時間労働は、これを心底反省しなかった帰結です。

平山良平

1910年以来、朝鮮の民族独立の願いを圧殺し、暴虐の圧政を朝鮮半島の人民に加えた日本帝国主義は、真っ向から弾劾されるべきだ。その暴虐に「非武装」で向かっていった朝鮮人民の独立「万歳運動」を心から強く支持する。

増田博光

3.1 独立運動に立ち上がった人々に思いを馳せる。排外主義や植民地主義、抑圧や侵略は100年前の亡霊だ！今を生きる私は、せつせと「東アジアの平和と交流の花」を咲かせる水をやり続けたい。(´v`)/

大畑正姫

100年前、2・8から、3・1、5・4につながる東アジア民衆の連帯があった。いま、キャンドル闘争につながる北東アジアの連帯を作り出したい。

高田健 (許すな！憲法改悪・市民連絡会)

従軍慰安婦の問題も、徴用工の問題も、そして、朝鮮学園の無償化適用除外の問題も、全て日本人側の問題だ。歴史に背き、事実を歪曲し強者のごとく物をいう姿は「裸の王様」でしかない。

匿名希望

私たちは日本政府に対し、加害の歴史を直視し、被害者への誠意ある謝罪を求めます。キャンドルデモを成功させ、#MeToo 運動を盛り上げた韓国の女性たちから学び、連帯して女性が生きやすい社会を目指します。

ふえみん婦人民主クラブ

3・1独立運動は、朝鮮人民の自己犠牲の精神と独立への強い信念に支えられていた。日本人は歴史認識を深め、隣国との友好への道を進まなければならない。

池田一雄 (日朝協会東京都連合会中野支部)

偏狭な民族主義から自由な「3・1宣言」には、100年の時差を超えた普遍性がある。朝鮮半島の人々の自由を踏みにじった、35年植民地支配の歴史を背負う私たちは、居丈高な韓国非難を繰り返す安倍政権を許してはならない。

奈良本英佑

「東京大空襲訴訟」の闘いで、東京都慰霊堂に眠る朝鮮人犠牲者のご遺骨の存在を知りました。「植民地主義の清算と平和実現のための日韓市民共同宣言」(2010年)に学び、歴史の真実を受継いでいきます。

千葉利江

100年前の3.1 独立運動の精神を現在の日本人としてしっかり受けとめたい。不幸な歴史を繰り返さないために日韓・日朝の友好ためにがんばりたい。その友好への道の1つが、日本を米国の属国状態にしている日米軍事同盟から脱することだ。

赤石英夫

3・1 独立運動100周年。この歴史的な年に朝鮮半島が統一されることを望みます。朝鮮・韓国は今日に至るまで他国を侵略したことない国です。このような国こそ、人類の平和を象徴する国にふさわしいと思います。この理想が理想ではなく現実になることを切に望みます。

大場小夜子

隣人との平和なしに世界平和なし。日本と朝鮮は隣国。隣国との平和なしに日本の、朝鮮の平和なし。まず悠久の昔から近代に至るまでの両国の歴史関係を知ろう。そして、朝鮮支配をした40年間の日本の歴史を深く知ろう。そして行動に。

奥道直子

100年前に立ち上がった人々が願った新しい世界はまだ訪れていません。目に見えにくい人びとの動きや小さな弱い声をも感じ取ることを大切にして、歴史を学び伝えていくことで、この世界を理想に近づけていく所存です。

外村大

南無妙法蓮華經

日本による朝鮮半島の植民地支配の過酷な実態を今こそ日本社会は知らなければなりません。

知ることによって、朝鮮半島の人々との和解と平和への第一歩を初めてしるすことができるのです。合掌

竹田隆雄（日本山妙法寺僧侶）

朝鮮3・1独立宣言に心からの敬意を表します。この崇高さに学ばず、むしろ朝鮮民族を弾圧・収奪し民族の誇りを深く傷つけた日本軍の行為を恥ずかしく思います。今こそ、東アジアの和解と平和を共に創っていきましょう。

くじゅう のりこ

明治から150年、私たちは一貫して「脱亜入欧」に囚われてきた。日本人に埋められた「アジア蔑視」の首枷を、私たちは、私たち自身で外さなくてはならない。私たち自身の、明日のために！

藤本泰成（平和フォーラム共同代表）

3・1人民蜂起の奔流は、その後パリ（講和会議）とモスクワ（コミンテルン）に向かう。百年をへた今、私たちは後者の流れに属する極東勤労者大会（1921年）での朝鮮人キム・チョウの警告を胆にすえ運動する。

本郷文化フォーラムワーカーズスクール（HOWS）

3・1独立運動で犠牲となられた方々に対して深い尊敬と哀悼の念を捧げます。一国の独立のみでなく東アジア・世界の民主主義的発展をも願い、憎しみを戒め対話と強調を基とする私たちに期待している運動です。

堀口 晃（藻岩発電所建設工事犠牲者追悼碑を維持普及する会）略称（藻岩の碑を維持普及する会）

私たちはドラマや映画など韓国の映像を研究する会です。韓流文化の豊かさと日本や権力者と闘ってきた民衆の力強さを教えられました。朝鮮半島の人々から抵抗を学び、市民と連帯し平和な世界をつくることを誓います。

栗原順子（韓流メディア研究会）

明治以降の日本の歴史は一言でいえば、傲慢な歩みでありました。それを導いた皇国史観と皇民化政策への根本的な反省なくしてアジアの友邦との交わりはあり得ません。

関田寛雄

植民地の抵抗運動という枠を越えて、人類史の新たな展開までを希求した高らかな3.1宣言に心揺さぶられました。新たな植民地主義の動きに対して、正義と人道とを武器に立ち向かっていきましょう。

松浦賢治

3.1 朝鮮独立運動は、日帝朝鮮支配に対する最大の闘争であった。1945年、日本はポツダム宣言を受諾し、朝鮮の独立を認めた。しかし、現安倍政権は今も朝鮮人を差別して恥じない。私は日本人の一人として、朝鮮人民との連帯を誓い、断固闘う。

花輪不二男

100年前に朝鮮半島の人々が日本からの独立を願い、自ら決起しました。それから100年、日本政府は植民地支配の反省もせず、徴用工の問題は解決済みなどと言っています。ましてや朝鮮民主主義人民共和国とは国交も開いていません。私は朝鮮の南北統一を願い、それに協力する日本政府をつくっていくための努力をします。

大谷猛夫

1919年、隣国の朝鮮人民は、日本からの独立を求めて命がけで闘った。今、安倍政権は、米国に追随して日本を再び「戦争する国」にしようと執念を燃やしている。戦後最悪の安倍政治を打倒すべく全力を尽くす決意だ。

石橋正夫(日朝協会会長)

日本の敗戦の時、十歳であった私は、その実態を知りませんでした。その後、靖国合祀反対の法廷に陪席、又、戦時中韓国・朝鮮の方々へ行ってきた耳を覆いたくなる我が国の暴挙に対して心からお詫び致します。

田中夫伎子

日本と朝鮮は元々姉妹関係であるのだ。日本が妹分だ。姉である朝鮮に日本が不義理をしたのだ。謝罪してもしきれない犠牲者への謝罪として、事実は事実として、過大にも過小にもゆがめない認識が必要だろう。これからは友好関係を結ぶべきだ。

外川美夏

安倍粉砕！ 戦争法反対！ 「戦争とは悪であり、国家の行う犯罪行為だ！」税金とは取り易い所から取る物であり、現在ではサラリーマン、庶民であり、そのサイフから取る税金が消費税である。消費税廃止！ 軍拡反対！ 朝鮮半島の統一を願います。

五十嵐政晴

「良心的兵役拒否」を認めた2018年の韓国憲法裁判所の判決。2003年10月23日の東京都教委の日の丸・君が代強制通達。思想・良心・教育の自由のため、通達の撤廃を求め、たたかい続けます。再雇用を拒否された約700名の一人。

立川秀円

日本人の韓国、朝鮮への「加害者意識」のなさや、「嫌韓意識」、「差別意識」の元は、支配層の策略(=教育)であると気づいた。ゆれ動く東アジアの中で、正しい日韓の歴史を学び、伝えることを自分もやらねばならない。

木村尚司

昨年、朝鮮半島は本当に素晴らしい年でした。「握手している2枚の写真」は、(嬉しすぎて)額に入れて飾っています。独立運動100周年の今年は、「平和協定」締結、「平和統一」の成就を、是非見たいです。

平野昌男

同じ時代に生き、アジアに暮らす私たち。力に抗う声をあげ続けた先人たち。そして、今に繋がる命のいとなみと、その道程の重さを刻みます。1人1人が生きる事を許容しあえる関係を紡いでいきたい。

黒田恵

私たちは負の歴史から学ばなければならない。隣人として再び過ちを繰り返さないためにも普段から声をあげよう。

益永陽子

まずは、家族と3.1運動の勉強を。身近な知人にきっかけから3.1を伝えよう。

高野山文夫

過去朝鮮の人々に耐え難い苦難を強制し、今両国間に生起している問題に、安倍政権が高圧的態度に終始していることは情けない限りです。宣言は格調高く、寛容で、非暴力、民族の誇りに満ちた立派なものを受け取りました。

柳瀬喬啓

3.1 宣言 100 年、敗戦 74 年、日本は「邪道」から抜け出たか、「東洋の支持者としての重責を全う」しうる国となったか。今こそ植民地主義を清算し、南北終戦宣言にこたえ、この国を東アジアの平和構築を担う存在へとかえていこう！

矢野秀喜

宣言書

わたしたちは、わたしたちの国である朝鮮国が独立国であること、また朝鮮人が自由な人間であることを宣言する。このことを世界の人びとに伝え、人類が平等であるということの大切さを明らかにし、後々までこのことを教え、民族が自分たちで自分たちのことを決めていくという当たり前の権利を持ち続ける。5000年の歴史を持つわたしたちは、このことを宣言し、2000万人の一人ひとりが心一つにして、これから永遠に続いていくはずの、わたしたち民族の自由な発展のために、そのことを訴える。そのことは、いま、世界の人びとが、正しいと考えていることの実現のために世の中を変えようとしている、その動きをともに進めていこうという訴えでもある。

このことは、これは自然にあるべき秩序としての天が命じることであり、時代の動きにしたがうものである。また、すべての人類がともに生きていく権利のための活動である。たとえ神であっても、これをやめさせることはできない。わたしたち朝鮮人は、時代遅れとなっていたはずの侵略主義や強権主義のせいで、他の民族の支配を受けるというこれまでにない経験をするようになった。自由が認められない苦しみを味わって10年が過ぎた。支配者たちはわたしたちの生きる権利をさまざまな形で奪った。そのことは、わたしたちの心を苦しめ、文化や芸術の発展の妨げとなった。民族として誇りに思い大切にしていたこと、栄えある輝きが、徹底して破壊され、痛めつけられた。そして、わたしたちは世界の文化に貢献することもできないようになってしまった。

これまでおさえつけられて表に出せなかったこの思いを世界の人びとに知らせ、いまの苦しみから抜け出して、危険や恐れを取り除くためには、押しつぶされて消えてしまった、民族として大切にしていた心と、国家としての正しいあり方を、奮い起こし復活させ、一人ひとりがそれぞれ人間として正しく成長していかなければならない。次世代を担う若者に、いまの状況をそのままとしていくことはできないのであり、わたしたちの子どもや孫たちが幸せに暮らせるようにするためには、まず、民族の独立をしっかりとしたものとしなければならない。2000万人が決意を固くしてそれを刀とし、人類がみな正しいと考え大切にしていること、そして時代を進めようとする心をもって正義の軍隊とし、人道を武器として、身を守り、進んでいけば、強大な権力に負けることはないし、どんな難しい目標であってもなすとげられないはずがない。

日本は、朝鮮との開国の条約を丙子年〔1876年〕に結び、その後も様々な条約を結んだが、そこに書かれた約束〔朝鮮を自主独立の国にすることなど〕を破ってきた。しかし、そのことをわたしたちは、いま非難しようとは思わない。日本の学者たちは学校の授業で学生を前にして、政治家は演説や会議の場で、わたしたちが先祖代々受け継ぎ行ってきた仕事や生活を遅れたものと馬鹿にし、わたしたちのことを、文化を持たない民族のように扱おうとしている。彼らは征服者の位置にいることを楽しみ喜んでいる。わたしたちは、彼らが、わたしたちの作り上げてきた社会の基礎とこれまで受け継いできた民族の大切な歴史や文化の財産とを、馬鹿にして見下しているからといって、そのことを責めようとはしない。わたしたちは、自分たち自身をはげまし、自分たち自身を立派で確かな存在にしていこうとしていることに忙しいのであって、ほかの人をあれこれ恨む暇はない。いまこの時を大切に、急いでいるわたしたちは、かつての過ちをあれこれ問題にして批判する暇はない。いま、わたしたちが行わなければならないのは、よりよい自分を作り上げていくことだけである。他人を怖がらせたり、攻撃したりするのではなしに、自ら信じるところにしたがって、わたしたちは自分たち自身の新しい運命を切り開こうとしているのである。決して、昔の恨みや、一時的な感情で、他の人のことをねたんだり、追い出そうとしたりするわけではない。古い考え方を持つ古い人びとが力を握っていて、そのなかで手柄を立てようとした日本の政治家たちのせいで、ひどい目にあっていて、不自然で道理にかなっていないことが行われている現在のこの状況を、本来あるべき状態にして、当たり前の道理にかなった世の中にしようというだけである。

もともと、日本と韓国〔大韓帝国〕との併合は、民族の望みとして行われたのではない。そのために、威圧的で、差別・不平等な政治が行われている。支配者はいいかげんなごまかしの統計数字を持ち出して自分たちが行う支配が立派なことであるかのようにいつている。しかしそれらのことは、二つの民族の間に深い溝を作ってしまう、互いの反発を強めて、仲良く付き合うことができないようにしているというのが今の状況である。きっぱりと、これまでの間違った政治をやめて、正しい理解と心の触れあいに基づいた、新しい友好の関係を作り出していくことが、わたしたちと彼らとの不幸な関係をなくし、幸せをつかむ近道であるということ、はつきりと認めなければならない。

また、怒りと不満をもっている、2000万人の人びとを、力でおどして押さえつけることでは、東アジアの永遠の平和は保証されないし、それどころか、東アジアを安定させる際の柱になるはずの中国人の間で、日

本人への恐れや疑いをますます強めるであろう。その結果、東アジアの国々は共倒れとなり、滅亡してしまうという悲しい運命をたどることになる。いま、わが朝鮮を独立させることは、朝鮮人が当然、得られるはずの繁栄を得るというだけではなく、行くべきではない政治を行い、道義を見失った日本を正しい道に連れ戻して、東アジアをささえるための役割を果たせようということであり、同時に、そのことによって中国が感じている不安や恐怖をなくさせようとするためでもある。つまり、朝鮮の独立はつまらない感情から求めているわけではないのである。

ああ、いま目の前には、新たな世界が開かれようとしている。武力をもって人びとを押しえつける時代はもう終わりである。これまでの歴史のなかで、絶えることなしにずっと、磨かれ、大切に育てられてきた、人間を大切にする精神は、まさに新しい文明の希望の光として、人類の歴史を照らすことになる。新しい春が世界にめぐってきたのであり、すべてのものがよみがえるのである。酷く寒いなかで、息をひそめ土の中に閉じ込められる時期もあるが、再び暖かな春風が、お互いがつながっていく時期がくることもある。いま、世の中は再び、そうした時代を開きつつある。そのような世界の変化の動きに合わせて進んでいこうとしているわたしたちは、そうであるからこそ、ためらうことなく自由のための権利を守り、生きる楽しみを受け入れよう。そして、われわれがすでにもっている、知恵や工夫の力を発揮して、広い世界にわたしたちの優れた民族的な個性を花開かせよう。

わたしたちはここに奮い立つ。良心はわれわれとともにあり、真理はわれわれとともに進んでいる。老人も若者も男も女も、暗い気持ちを捨てて、この世の中に生きているすべてのものとともに、喜びを再びよみがえらせよう。先祖たちの魂はわたしたちのことを密かに助けてくれているし、全世界の動きはわたしたちを外側で守っている。その実行はすでに成功を約束している。わたしたちは、ただひたすら前に見える光に向かって、進むだけである。

公約三章

- 一、今日われわれのこの拳は、正義、人道、生存、身分が保障され、栄えていくための民族的要求、すなわち自由の精神を発揮するものであって、決して排他的感情にそれではならない。
- 一、最後の一人まで、最後の一刻まで、民族の正当なる意志をこころよく主張せよ。
- 一、一切の行動はもっとも秩序を尊重し、われわれの主張と態度をしてあくまで光明正大にせよ。

朝鮮建国四千二百五十二年三月一日

朝鮮民族代表

孫秉熙 吉善宙 李弼柱 白龍城 金完圭 金秉祚 金昌俊 權東鎮 權秉惠 羅龍煥 羅仁協 梁甸伯 梁漢默 劉如大 李甲成 李明龍 李昇薰 李鍾勳 李鍾一 林礼煥 朴準承 朴熙道 朴東完 申洪植 申錫九 吳世昌 吳華英 鄭春洙 崔聖模 崔麟 韓龍雲 洪秉箕 洪基兆

※上記の「宣言書」の日本語訳は、朴慶植『三・一独立運動』（平凡社、1976年）所収の日本語訳ほかを参照し、3・1独立運動100周年キャンペーン実行委員会によって行われました。わかりやすい日本語にするためにある程度の語を補ったり、文脈から意味を考えてやさしい語をあえて用いたりしています。



ソウルのタプコル(旧パゴダ)公園にある3・1独立運動の像と記念碑、レリーフの一部